

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970700146		
法人名	医療法人 元湧会		
事業所名	グループホーム わいず		
所在地	高知県四万十市中村大橋通6丁目7-5		
自己評価作成日	平成28年12月10日	評価結果 市町村受理日	平成29年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は市内にある医療機関の一部を改修して、狭いスペースではあるが、家族の思いや、入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、家庭的な環境を心掛けている。近所の理美容店の利用、そして地区主催の防災訓練等に参加することや散歩に出かけることで、地域との交流が出来るように努めている。また、同一法人の老人保健施設での慰問や、行事に参加し交流するなどしている。毎日の計算ドリルや嚙下体操・機能訓練を日課とし、ADLの低下防止、認知症緩和につなげるとともに、毎月定期受診を行い健康管理に努め、医療連携体制も整っており、安心して暮らせるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&JigyosyoCd=3970700146-004PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年1月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は市内の中心部に位置し、近くにスーパーや商店、ドラッグストアなどがあって、買い物等の外出に便利である。
 事業所が家庭的な雰囲気を持つことを大切に、手作りの食事を基本とし、季節に合わせて、鏡開きのぜんざいや、恵方まき、カボチャ等を提供したり、冬至にはゆず風呂に入るなど、四季を感じる取り組みを行っている。また、畳一畳ほどの畑や2階のテラスにピーマンやエンドウ、ブロッコリー等の野菜も栽培し、旬の食材に役立っている。
 同一法人の医療機関と隣接していることから、医療連携体制が充実し、利用者1人ひとりに応じたりハビリテーションにも力を入れている。事業所の「人権尊重、その人らしい生活の支援」の基本理念には、「職員の心構え」と「決まりごと」を同時に掲載して理念の実践に努め、日々利用者が楽しく暮らせるよう取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、職員の意識付けのための心構えなどを明文化し、その中の一つを目標として掲げている。	「利用者の人権尊重と、地域の一員としてその人らしい生活を支援」という理念に加え、「職員の心構え」と「決まりごと」として具体的な実践項目を示して、理念の実現に努めている。職員会では職員間の話し合いを大切にし、理念の共有と実践に繋げている。	職員の話し合いの場を増やしていくことで、理念をさらに徹底し、サービス向上に反映していくことを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を利用者と一緒に届けに行ったり、同じ理美容店を利用して顔なじみの関係を作っている。又春には地域の防災活動に参加している。	同一法人の老人保健施設での幼稚園児との行事に、利用者も参加している。また、地域の防災訓練にも利用者と共に参加し、顔を覚えてもらっている。市民祭では、事業所で近隣のコンビニエンスストアの駐車場を借りて、家族の協力を得ながら、催し物を楽しみ交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実地できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況の報告をし、改善のアドバイスをもらい、出来る事はすぐ対応し、サービス向上につなげている。	会議には28年度から、副区長か民生委員が毎回出席している。事業所からの活動報告と意見交換を行い、事故報告の様式について書式の助言を受け改善したり、誤薬防止の方法を習ってサービス向上につなげるなど、運営に反映している。会議録は、全家族に送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、事業所の状況を把握してもらうとともに、日頃から何かあれば相談するようにしている。	運営推進会議での意見交換のほか、災害対策マニュアル作成時にも、不明なことは市の担当者に相談するなど、行政との協力関係ができています。外部評価結果等を市に提出するときは、市からの意見も聞き運営に活かしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員で個別ケアの統一の話し合いを行い、その際身体拘束をしないケアが出来ているか確認している。	法人内研修への参加や、所内の個別ケアの話し合いの中で、身体拘束をしないケアを理解し、日々のケアに取り組んでいる。法人内研修は28年度は7回開催され、出席可能な職員が参加して理解を深め、言葉遣いを大事にして、職員間でも注意し合っている。	身体拘束をしないケアについて、所内研修等によりさらに職員全員が知識を共有できるよう取り組み、正しい理解を一層深めていくことを期待したい。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の業務の中で行動や言動による虐待が、見過ごされないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な場合は管理者一人の対応となるため、他の職員は理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や、解約の際には十分な説明を行い、利用者や家族の不安・疑問点を解消し、理解と納得を得るようにしている。また利用途中、重度化に伴った経済的負担に対しても、説明を行い理解と納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族参加の行事の際には、家族のみでの話し場をもうけ、そこで出た意見を運営に生かしている。	家族会は花見と敬老会の行事に合わせて開催している。家族が会を進行し、事業所は家族会の意見や要望の反映に努めている。誕生日会に本人の家族に参加を呼びかけることで、その家族が毎回行事に出席してくれるようになった事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申送り時に、業務中気が付いた事など、その都度意見交換している。	職員には、ミーティング時や申し送り時に意見を聞いている。職員からは積極的に意見や提案が出ており、布パンツ使用の利用者が併用する、パッドからの尿漏れ防止の工夫が提案されるなど、ケアに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の勤務状況や業務態度、努力していることなどの把握に努め、働きやすい環境作りの配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置体制上、回数は多くないが、出来る限り外部研修や院内の勉強会に参加し、研修内容は全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会へ参加し、テーマに沿って勉強したり、情報交換また管理者・職員同士の交流を通して、サービス向上を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り入居前に、施設を見学してもらい、話し合いの場をもち、不安な事や要望などを聞き、安心して過ごしていただけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からこれまでの状況や生活スタイル、要望などを傾聴し、出来る限り応えていけるよう、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に利用していたサービス内容について、担当ケアマネジャーや相談員から情報を得るとともに、本人・家族の意向に沿うよう支援方針を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共有できる時間やコミュニケーションを大切にし、家事、畑仕事など職員と利用者が一緒に行い、人生の先輩として教わる姿勢忘れず、共に暮らしていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればその都度家族に報告し、意見をもらっている、他科受診時にはなるべく家族に付き添いを依頼し、共に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類・友人の面会時には居室でゆっくり過ごしてもらっている。しかし、面会の為に外出する機会はほとんどない。	友人等が訪れた時は関係が継続できるように支援しているが、中には入居していることを知られたくない家族もあり、それぞれに配慮している。事業所は行きつけの美容院の利用等を支援し、行けない時は訪問美容を依頼するなど関係が続くよう努めている。	把握している馴染みの人や場所について、外出支援の中で訪問できないか検討する等、関係継続の方法についてさらに話し合うことを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、コミュニケーションを図るきっかけ作りや、トラブルを招かないよう、職員が関係を取り持つなどの支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もこれまでの関係を大切に、家族などに会った際には声を掛けるようにしている。住み替えが必要になった場合には、移り住む先へ利用者の情報を詳しく伝えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを大切にし、日常の会話や行動などから希望などを把握し、本人本位に検討している。	かつて活け花を教えていた利用者へ、玄関の花を活けてもらったり、日光に当たりたいという利用者があれば一緒に散歩に出かけている。利用者が口に出さない思いも、表情や家族からの情報をもとに職員で話し合い、実現に向けて支援している。	把握した利用者の特技等についても記録にとどめ、職員が共有して支援につなげることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族、以前利用していたサービス担当者から生活歴などの情報を収集するとともに、入居後も本人や家族などとの関わりの中で、新しい情報の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝の申し送り時、本人の状態を職員全員で確認し、午後、本人への関わり方などを記録して、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時には近況報告し、家族や本人の希望を聞き、複数の職員と課題の分析を行いケアプランを作成している。担当職員が毎月モニタリングを行い、ケアマネジャーが3ヶ月毎にモニタリングを行って、見直している。	介護計画は6カ月に1回、又は利用者の状態変化時に見直している。計画のモニタリングは担当職員が毎月、管理者が3カ月ごとに行い、家族からは面会時等に意向を聞き取り、職員全員で話し合っって本人の能力を活かすことを大事に、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアプランの結果、職員の気づきなどを記載して職員間で共有し、ケアの実践やケアプランの見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の病院と併設しているメリットを活かし、本人・家族の要望に柔軟に応じて支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容店やスーパーを利用している。併設施設から車椅子対応の車を借りて外出支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の意向で、併設する協力病院をかかりつけ医としており、定期受診や緊急性がある時などに利便性があり、安心感もある。また他科受診は家族が対応してくれており、必要に応じて情報提供も行っている。	全利用者が併設の協力病院をかかりつけ医に希望し、月1回職員が付き添って外来受診している。眼科の専門医からは月1回の往診がある。利用者の症状に変化があれば家族に連絡し、職員間は申し送りノートに記載して、情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日併設する協力病院の看護師に、利用者の体調報告や相談ができ、適切な受診や看護が受けられる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院する際は、医療機関に情報提供を行い、入院後は病院関係者と定期的に情報交換や相談する機会を持ち、病状の把握や退院時期などについて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針を入居時に、本人・家族に説明し同意を得ている。協力病院と併設しており、支援体制も整っていて、本人・家族の安心を得ている。重篤となった場合、改めて家族の意向を確認し、主治医等と方針を共有しながら終末期を迎えられるよう支援している。	入居時に看取りの指針を利用者・家族に説明し、同意を得ている。重度化した時は、医師等の関係職種や家族と話し合いを重ねている。事業所での看取り事例は、これまでに1回あるが、現在は医療の必要から入院するケースが多い。併設の協力病院との連携は取れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設する協力病院の支援体制が整っており、日頃から助言をもらっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設する協力病院と合同で防災訓練を実施している。避難時の利用者のネームプレートの作成、非常持ち出し用品の準備、災害時の食料などを準備し、家具も固定している。地域住民の協力は得られていない。	年2回、消防署の協力を得て、母体の併設病院と合同で防災訓練を実施している。また、地域の防災訓練には利用者も参加している。非常用食料等は、3日分を備蓄している。	事業所独自で夜間想定自主訓練を実施し、全職員が昼夜を問わず利用者を避難させる方法を身につけることを期待したい。また、地域住民には訓練への参加協力を、引き続き呼びかけていくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の場面で職員同士で注意しあいながら、プライバシーを損ねず対応するよう努めている。	管理者及び職員は、利用者のプライバシーを損なわない支援をすることを心掛けている。特に言葉遣いに注意し、排泄介助では本人が羞恥を感じる言葉は使用しないように職員に徹底し、職員間でも注意し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中での会話や、関わりをする中で思いを表出できるようにしている。また、意思表示の出来ない利用者に対しても、表情や全身の反応を注意深くキャッチし、本人の思いを把握できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気持ちを大切にし、個々のペースでその人らしく暮らしてもらえよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて馴染みの美容院や理髪店へ行き、身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に応じた力が発揮できるよう、その日の状態を見て準備や後片付けをしてもらっている。職員も入居者と同じ物を食べ、味付けや好みなど聞いている。	職員が献立立て調理し、利用者はできるだけ能力に合わせて配膳や片付けを手伝っている。利用者と職員は同じ物と一緒に楽しく食事し、出された食事は全員残さず食べている。栄養にも注意し、血糖値に問題のある利用者の検査値が良くなっているなど、医師から評価されることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の状態に合わせて、主食・副食の形態を工夫したり、量を調整している。月1回の血液検査の結果により、主治医から指導も受けている。特に水分量が少ない利用者には、1日量をチェックし、確保できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアを行っている。利用者によっては、口腔内ウェッティでふき取り、口腔内の清潔保持をしている。また、週に1回義歯も洗浄剤で洗浄している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツはなるべく使用せず、布パンツで生活できるよう、排泄パターンを把握し時間での誘導や、仕草・行動を見ながら、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	介護度の高い利用者は、紙おむつを使用しているが、その他の利用者は布パンツにパッドを併用している。パッドには、尿漏れがないよう工夫をしている。入居時のオムツ使用から、自立に向けた支援により、布パンツとパッド使用になった利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床時にコップ1杯の白湯を飲んでもらったり、朝食にヤクルトの提供や、コーヒーや紅茶にはオリゴ糖を使用している。また日常生活の中に、散歩を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否をする方にも声かけを工夫して、入浴する事が出来ている。また、長風呂を好む利用者には、ゆっくり時間がとれるように配慮している。	利用者の希望に沿って入浴を支援しており、毎日入浴を希望する利用者はいないが、少なくとも2日に1回は入浴できるよう支援している。寒い時期は脱衣室に電気ストーブを設置し、防寒対策を十分に行い、入浴への抵抗感がないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や、希望に応じて休息してもらったり、日中の活動を多くするなどして、安眠につなげるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方の内容については、薬内容帳で全職員が確認できるようにしている。変更があれば、申送りでも共有している。状態に変化があれば、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きな家事、得意な事、興味のあることなど、利用者の状況にあった役割を担ってもらったり、レクリエーションなどを通じて、楽しく過ごしてもらうよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に職員同伴での散歩や、事前に食べたいメニューを決めて、外食にも出かけている。年間行事の中には、家族の協力を得ての外出も含まれている。	外出したくなるような言葉かけを工夫して、散歩に誘ったり、海の景色を見にドライブに出かけている。また、車いすでも入れるレストランを探し、できるだけ全利用者がそろって、外出ができるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員ではないが、持っている小遣いは事業所で預かっている。理髪店等を利用する際は、財布を渡してなるべく自分で支払いをしてもらうよう、見守り支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、その都度かけるよう援助し、かかってきた時は取り次いでいる。また、話の内容によっては、居室で話しが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさず行っている。季節に応じた飾りつけをするなどして、狭い空間ではあるが、和やかな雰囲気となるよう工夫している。	利用者が季節を感じられるような共用空間づくりに努めており、廊下の壁には、季節ごとの行事等の写真を飾り、玄関には、利用者が趣味を活かして季節の花を活けている。また、毎日清掃を行い、利用者は清潔に保たれた空間でゆっくりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂など、利用者がそれぞれ好きな場所で過ごせるようにしている。居間には、二つのソファを置き、横になって過ごすことも出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は、利用者の馴染みのある品物や家具を持ち込んでもらい、利用者それぞれ個性のある居室となっている。	居室には、適度な広さがあり、感染予防を目的に毎日担当職員が掃除をし、可能な利用者も一部手伝いながら居室を清潔にしている。家族の写真、馴染みの時計やタンスが置かれ、また、レクリエーションで利用者本人が作った毎月のカレンダーもあり、個性豊かな居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の立場に立った環境づくりを心がけ、安全かつその人に合った生活が送れるよう工夫している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない